

孫の手通信



第16号

平成23年4月3日

玉川孫一郎と歩む会

TEL/FAX: 050 (5549) 6005

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

新年度予算が成立

3月14日に閉会した第1回一宮町議会定例会で成立した平成23年度の予算を説明します。

予算編成にあたっては、貯金(財政調整基金)には手をつけないで予算を組むという方針で、徹底した事業の見直しをおこない、昨年に続いて2年連続、財政調整基金を取り崩さないで予算を組むことができました。

また財政調整基金を568,725千円から670,150千円に、庁舎建設基金を386,326千円から536,327千円に大きく積み上げることができました。

今年こんな事業を行います

今年町が行う主要事業は次の通りです。貴重な財源は、私が3年前に町民に約束したマニフエスト(新しいまちづくり)を実現する政策に重点的に配分しました。予算の詳細な内容は、5月全世帯に配布される「わかりやすい予算書」をご覧ください。

元気な子どもの声が聞ける町に

■一宮町子ども医療費助成事業

3,156千円

※8月1日から県に先駆け、小学校4年生から中学校3年生まで医療費助成を拡充します。

■病児保育委託事業

720千円

※新規に、白子町の酒井医院に委託し、就学前の乳幼児を対象に、病児保育を実施します。

■公立保育所改修事業

5,000千円

※町内3保育所に空調設備を取り付けます。もうこれで暑い夏も安心です。

お年寄りが安心してすごせる町に

■外出支援事業(新にこにこサービス)

9,836千円

※65歳以上の高齢者と身体障害者を対象に町内どこでも無料で送迎サービスを行います。

■上総一ノ宮駅バリアフリー事業

74,133千円

※上総一ノ宮駅に2台のエレベーターを設置し、多機能トイレや駅舎入り口にスロープを新設します。

若者が集う町に

■新規観光事業

1,801千円

●観光客おもてなし事業

7,006千円

※駅前に観光案内所を設置し、観光客の一宮町に対するイメージアップを図り、長期滞在やリピーター化を図るため実施します。

●観光情報データベース化事業

3,535千円

※観光情報の収集と、新たな観光資源の発掘を行いデータベース化します。

観光リーフレットや散策ルートを作成しプロモーション活動を実施します。

●観光パンフレット作成

1,260千円

※最新の観光情報を発信します。

■釣ヶ崎広場舗装整備事業

35,000千円

※約3,300mの整備

歴史的な十二社祭りの継承地であり、世界的なサイフインスポットでもある広場を整備します。

安心して暮らせる町に

■浄化槽等維持管理実態調査事業

4,975千円

※県内で初めて、浄化槽の実態調査

町内に設置されている全ての浄化槽を対象に維持管理状況の実態調査を実施し、きれいな一宮川・美しい海の環境保全と良好な生活環境を保つために必要なデータを収集します

■町内防犯灯LED化事業

20,242千円

※町内の防犯灯約1,600本のうち810本をLEDに設置替えします

電気料が30パーセントも削減され、環境面においても消費電力の低下によりCO2排出量が削減されるため、地球温暖化の抑制にも寄与します。

■住宅リフォーム補助事業

2,000千円

※地域経済の活性化と快適な住環境づくりを目指し、1件当たり20万円補助を上限として、予算の範囲内で事業を実施します

一宮町を襲った津波

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震で一宮町では震度5弱を記録し津波が押し寄せました。

町では、避難勧告を防災無線で呼び掛け、海岸地区には防災車・道路パトロール車で巡回を行いました。一宮町災害対策本部を設置し、全職員を動員して避難住民の受け入れ体制を整え、また一宮川水門の閉鎖を行うとともに河川水位を監視しました。

また、児童生徒の保護者への引き渡しを無事行い、避難者の受け入れを開始しました。その結果、14か所の避難所へ927人の方が避難されました。

第3波と第5波の津波が、北川尻川と新一宮大橋の近くの堤防を乗り越え、周辺の住宅に浸水しました。県が一宮川河口に設置した水位観測計によると、最大(裏面へ続く)

約2.7メートルの津波が押し寄せています。

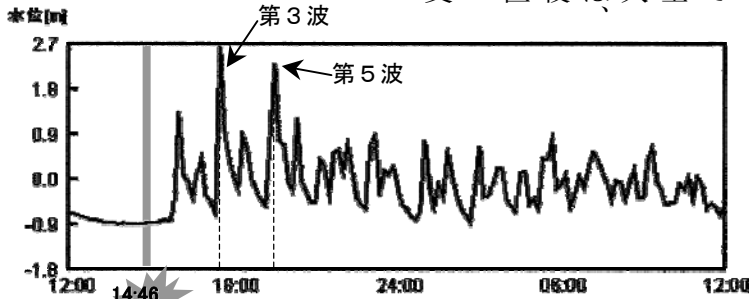
津波による被害は床上浸水が30戸、床下浸水28戸、道路損壊が1ヶ所でした。町では、床上・床下浸水家屋の畳上げと消毒を実施し、泥水に浸かった畳や家具は、役場職員が長生郡市広域市町村圏組合の処分場に搬送しました。今回の災害にあたり、避難所を快く提供していただきました各施設の皆さま、避難所に配布された約1千人分のおにぎりを用意していただいた日本赤十字社千葉県支部一宮町分区的皆さま、町内の状況をリアルタイムで連絡していただいたアマチュア無線クラブの皆さま、食料品を提供していただいた株式会社せんだう様、株式会社セブンイレブン様、網田集会所を自主開放していただきました網田区長様、災害復旧作業にダンパーカーを出して協力いただいた建設業協力会の皆さま、昼夜にわたり奮闘いただいた消防団の皆さまに心から御礼申し上げます。ありがとうございます。

救援募金のお願い

このたびの地震と津波で被災され、今なお不自由な生活を強いられています方が大勢いらつしやいます。町では、被災者を支援するために役場や公民館に募金箱を設置し救援募金を受け付けています。一人でも多くの方の支援をお願いいたします。



「協力、よろしく お願いいたします。」



3月11日 一宮川河口の水位

最近の新聞より関連記事をご紹介します。

平成23年2月27日 朝日新聞



最後の一宮藩主 加納氏の墓前に 玉川町長ら献花

最後の一宮藩主で、一宮町長も務めた加納久宜氏（1848～1919）の墓前で26日、献花式が行われた。写真

真。墓は同町一宮の城山公園にある。同日は命日にあたり、玉川孫一郎町長らが墓を清掃し、献花した。加納氏は1912～17年に町長を務め、農業や教育の振興、観光開発に尽力し、同町発展の基礎を築いた。同町は昨年、町制施行120周年を迎えたこともあり、地元有志がつくる加納久宜公研究会が功績をしのんで献花式を主催した。

平成23年2月19日 読売新聞



一宮中学生徒6人 町長と意見交換

一宮町の一宮中学校で、同中の生徒6人と玉川孫一郎町長の意見交換会が行われた。写真。町制120周年記念事業の一環で初めて開かれ、今後も続けるといふ。玉川町長は、「安全に遊べる場所をもっとつくってほしい」といった生徒たちの意見一つひとつに丁寧に回答。「将来の夢を持ち、目標に向かって頑張って」と励ました。2年生の森敦史さん（14）は「いい経験になりました」と笑顔を見せた。

平成23年3月2日 朝日新聞

海岸沿いに新築 固定資産税が増

一宮町で、サーフィン愛好者が転入し、海岸沿いに新築家を建てるケースが増え、固定資産税収入が増えている。玉川孫一郎町長が1日、記者会見で明らかにした。より多くのサーファーに来てもらうと、町はサーフィンスポットとしても知られる釣ヶ崎海岸の広場の整備費約3500万円を、新年度当初予算案に盛り込んだ。町の人口は昨年の国勢調査で1万2042人と前回調査より386人増。1日に発表

サーフィン愛好者の転入効果

度比3.9%増)の新年度一般会計当初予算案でも、町税収入が落ち込む中で、固定資産税収入は約6億3100万円と前年度より800万円増となった。玉川町長は「多くの部分をサーフィン愛好者が占めている」と語る。早朝、サーフィンを楽しんだ後、電車で首都圏に通勤する人が多いという。移住してくる家族は子ども連れが多いといい、新年度当初予算案でも、3カ所の町立保育所の空調設備取り付けに約500万円を計上した。玉川町長は「保育所も手狭になると思われるので、建て替えも含めて充実したい」と話した。

平成23年3月2日 千葉日報

一般会計3.9%増の37億円

一宮町が新年度予算案発表

一宮町は1日、2011年度当初予算案を発表した。一般会計は37億3900万円、前年度当初比3.9%(1億3900万円)の増。荒時に自動車の駐車が困難となる海岸沿いの釣ヶ崎広場舗装整備事業費などを盛り込んだ。歳入は、町税は景気低迷による所得減で同1.8%(2248万円)減の12億4968万円。町債は前年度当初と同額の2億1千万円、町債残高は1億円縮減し37億8530万円。主要事業では、商社創業者のふるさと納税を活用し、釣ヶ崎広場の舗装整備事業費に3500万円、町内3保育所の空調設備取り付けに500万円を計上する。その他の主な新規事業は▽町内防犯灯LED化事業(2024)▽駅前観光案内所設置事業(701)▽病児保育委託事業(2)からつこ内は事業費、単位は万円。